

平成30年度子ども・子育て支援推進調査研究事業

<調査研究報告書タイトル>

地域子育て支援拠点の寄り添い型支援が親の成長を促すプロセス分析と支援者の役割に関する調査研究

<実施主体名>

NPO 法人子育てひろば全国連絡協議会

子育ての不安感や負担感、孤立感が高まる中で、地域子育て支援拠点事業は、地域子ども・子育て支援事業の一つに位置づけられ、最も身近な地域における支援の中核として重要性が増し、役割に期待がかけられている。

本研究では、全国504箇所の地域子育て支援拠点の支援者と利用者を対象に、地域子育て支援拠点で重視される「寄り添い型支援」を概念化し、親の不安感や負担感、孤立感をどのように軽減するのか、本来親が持つ力をどのように育み、「親としての成長」を促すかを明らかにし、支援の質の向上に貢献する知見の探索を目的に実施した。

実施した量的調査・聞き取り調査・プレ／ポスト調査の結果から、地域子育て支援拠点における「寄り添い型支援」は、支援者を対象とした量的調査から4つの側面（対人援助技術の活用、受容的・共感的姿勢、知る・学ぶ機会の提供、個別ケースの共有と対応）が捉えられ、聞き取り調査からは4つの支援活動（拠点という場の力を使って行った支援、支援者と利用者の相互作用を活用した支援、利用者相互の関係性を用いて行う支援、その他の支援）に分類された。地域子育て支援拠点における「親としての成長」は、利用者を対象とした量的調査から3つの側面（エンパワメント、交流の広がり・深まり、自己有用・有能感）が捉えられ、聞き取り調査からは13のカテゴリー（安全基地と安全な避難場所の獲得、親の愛着対象の認識と獲得、セルフケアの意識、養育力の獲得、他者に頼る力、子どもの育ちを分かち合える仲間の獲得、経験を生かした自己実現への意識の高まり、肯定的な養育イメージの獲得、親世代との関係の見直し、将来展望の獲得、配偶者との関係の見直し、職業観の獲得、他者への貢献意識の獲得）が一連のつながりとして把握され、地域子育て支援拠点が親にもたらす成長は、親役割だけにとどまらない、人間的成長までを含んでいることを示していた。加えて、プレ／ポスト調査の結果から、利用者が「寄り添い型支援」を受けていると意識しているほど、自らの親としての成長を実感しているという可能性も導き出された。

地域子育て支援拠点において「利用者が親として自らを変容させていく過程を見守り支える」という特性を「寄り添い型支援」として高め、子育て中の親が本来持っている強み（力）を育み、「親としての成長」を促すための枠組みが、本調査研究によって明らかになったことから、これらの結果を地域子育て支援の実践の場と共有しながら、支援の質の向上に活用していく具体的な方策を検討し、開発、実践することが期待される。